

## 地球惑星科学者のキャリアパスを考える Career path of young scientists

中村 正人<sup>1\*</sup>  
NAKAMURA, Masato<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所

<sup>1</sup>Institute of Space and Astronautical Science of Japan Aerospace Exploration Agency

地球惑星科学の持続的な推進・発展には、人材の育成と確保が不可欠である。そのためには、若手研究者がその力を最大限に発揮していける支援が必要であり、一方、若手研究者はそれにきちんと応えていかなければならない。しかし、任期付き雇用が増えてきた経緯もあり、多くの若手研究者がキャリアアップに対して悩みや不安を抱えているのが現状である。このため、彼らは、将来への見えない不安に研究の道を諦めようとしたり、ライフイベントとの両立に苦戦したりしている。先輩研究者がキャリアを積み重ねてきた経験そのものが、若手研究者のロールモデルであり、次世代育成のためのメンターとなっていることは疑う余地もない。そこで、これからの時代に求められる研究者像やキャリアアップの際の心構え、困難を抱えながらも研究に邁進してきた研究者の例を紹介することにより、若手ないし中堅研究者が将来プランを考える時の一助にしたい。

## 筑波大学におけるダイバーシティ推進への取り組み Effort for Diversity Promotion, University of Tsukuba

幅崎 麻紀子<sup>1\*</sup>  
HABAZAKI, Makiko<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 筑波大学ダイバーシティ推進室  
<sup>1</sup> Office of Diversity, University of Tsukuba

筑波大学は、男女共同参画社会の実現のために果たしていくべき社会的役割と責任を認識し、第3次「男女共同参画基本計画」や第4次「科学技術基本計画」に基づき、男女共同参画の推進に取り組んでいる。平成19年には「男女共同参画推進委員会設置」、平成20年には「男女共同参画推進室設置」「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念と基本方針」が策定され、平成21年には「持続可能な女性研究者支援、筑波大スタイル」が「平成21年度科学技術振興調整費（女性研究者支援モデル育成事業）」として採択され、平成24年3月まで3年間、同事業の支援を受けて環境整備に努めてきた。平成24年4月には、男女共同参画に加え、他国籍や障害をもつ教職員が安心して勤務できる環境作りをめざし、「男女共同参画推進室」を「ダイバーシティ推進室」へ改編し、「ダイバーシティ推進に係る基本理念・基本方針」を定めた。平成25年3月には「筑波大学 ダイバーシティ推進行動計画」の策定、8月には「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の採択を受け、男女共同参画・ダイバーシティ推進の環境拡充に邁進している。

ダイバーシティ推進行動計画（計画年度：平成25年度～平成30年度）では、①大学運営におけるダイバーシティの推進、②教育・研究・就業と家庭生活との両立支援、③ダイバーシティ実現のための裾野拡大、④教職員・学生への啓発活動の推進、⑤地域社会・国際社会との連携を通じたダイバーシティの推進を目標に、各種事業を進めている。

中でも、出産・育児・介護中の教職員への対応（研究補助者雇用支援、代替教員確保、柔軟な勤務体制の制度化、相談室の設置等）、意識啓発事業（管理職員を対象としたダイバーシティ意識啓発セミナー、学群・大学院生を対象としたワーク・ライフ・バランス意識啓発科目「ワーク・ライフ学 I・II」の開講等）、理系に進む若い世代（特に女性）を育てる「裾野拡大」等に力を注いでいる。これらの取組とも相まって、筑波大学の女性研究者比率は年々高まりつつある。

005-03

会場:313

時間:4月29日 10:05-10:35

介護・育児・研究の両立～私の介護経験～  
Balance with caring for parents, caring for children, and studying-My experience in caring for my parents-

大矢 浩代<sup>1\*</sup>  
OHYA, Hiroyo<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 千葉大学大学院工学研究科  
<sup>1</sup> Graduate School of Engineering, Chiba University

ある日突然、親の余命が半年と宣告され、自宅で介護することになったら。介護は突然やってきて、長期に及ぶこともあります。研究・子育ての最中に、がんで余命半年と宣告された実父を介護した経験から、介護・育児・研究を両立していたとき、どのような日々を送っていたかをお話しします。介護を経験した人もそうでない人も、それぞれの立場から、一緒に介護を考えてみませんか。

また現在、子供たちが大学生・高校生になり、現在、仕事と育児のバランスが子供たちが小さい頃と比較してどのように変わったかについても言及します。

## イクメンのすすめ An Encouragement of doing *Ikumen* and taking *paternity leave*

吉田 大樹<sup>1\*</sup>  
YOSHIDA, Hiroki<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 非営利活動法人ファザーリング・ジャパン  
<sup>1</sup>Fathering Japan, Nonprofit Organization

イクメンという言葉が登場してから、男性の育児参加は確実に増えています。しかし、実際に父親が育児に参加するには、さまざまな壁が多いのは確かです。例えば、男性の育児休暇は制度で認められていますが、職場の雰囲気や近隣の目を必要以上に考えてしまったために、育休取得を躊躇する人が多いのではないのでしょうか。また、実際に育休を取って見たものの、初めての育児に悪戦苦闘したり、地域の母親たちのグループの目を気にしてしまったりして、嫌な思いをすることも多々ありましょう。

育児というのは、ただ決められた単純作業を行えばいいわけではなく、大事な未来の宝を育てる大切な仕事です。そのためには、子供たちの視点に立ち、子供たちが主体となる育児が必要です。育児経験を積むことで、当事者自身が成長し、仕事への励みになり、後進への有益な援助者にもなり得るのです。子供が笑顔になるために最も重要なことは、親が笑顔でいること。本講演では、父親の笑顔を大切に自身自身の育児経験をもとに、育児の大変さを克服した点を紹介するとともにイクメンの楽しさについてお話します。

## タイの家庭の現状と将来 Now and Future Thailand's Family

タンワッタナヌクン ラダー<sup>1\*</sup>  
TANGWATTANANUKUL, Ladda<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 秋田大学大学院工学資源学研究科

<sup>1</sup> Graduate School of Engineering and Resource Science, Akita University

In Thailand, families reside with their family size either in cities or countryside. The family size in countryside is larger than one in cities. The marriage practice allows women to move into husband's family.

Family member are delegated household each other. Women do household: cooking, cleaning and washing. Instead, men do heavy work in their house. When children reach about 8 years old, they need to assist their mother and father like cooking and taking care of younger siblings. Most men of Thailand can cook and taken care of kids. Recently, the family likes to pay money to housekeeper to clean house and wash clothes. Some family's grandmother and grandfather are in house. They take care of kids when the parent goes to work out. Women worked in company or government ask maidservant to stay with her family. Maidservant will take care of baby and cooking for the host family. They get foods and salary about 20000 yen per month. Most of the maidservants are teenager and the maidservants are from Myanmar or Laos. However, recently women who graduate from colleges or universities become choosing to work for long period before marriage.